

令和2年度第1回
昭島市総合教育会議議事録

昭 島 市

- 1 開催日 令和3年3月24日
- 2 場 所 昭島市役所 市民ホール
- 3 出席者 臼井伸介市長、山下秀男教育長、紅林由紀子教育委員、石川隆俊教育委員、
氏井初枝教育委員、白川宗昭教育委員
- 4 開 会 午後4時30分
- 5 閉 会 午後5時30分
- 6 大 要

○臼井市長 本日、本年度第1回目の昭島市総合教育会議を開催するにあたりまして、私から
ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、3月21日に緊急事態宣言が解除
されたところではありますが、東京都の感染者数については高止まりの中であ
り、3密を控えながら対応していかなければいけない状態が続いております。

昭島市でも現在605名の感染者が出ており、少人数のクラスターは一部の
高齢者施設でありましたが、大きなクラスターは発生していません。保健所、保
健福祉部で調査させていただいたところによりますと、家庭内感染が続いてお
り、感染者は増え続けているが、現在重傷者はいないということであります。

大変多くの方が亡くなり、全世界でも大変な状況ではありますが、そういった
方々にお悔やみを申し上げるとともに、医療従事者をはじめとした皆さま方が
積極果敢に対応していただいていることにつきまして、感謝申し上げます。

1日でも早く新型コロナウイルス感染症が終息して、マスクのない状態で、し
っかりとした会話ができることを願っております。

ワクチンについて、打つ、打たないは自由ですが、打つことを希望している方
にはしっかりした体制を整えており、医療機関や医師会と連携しながら、集団接
種の場所も確保しているところであります。

ワクチンだけではなくて、対処療法ができるしっかりとした薬も開発されて、
1日でも早くコロナが収束することを願っております。

教育総合会議の発足は天津市のいじめ問題に端を発し、教育委員会だけの対
応だけではなく、市長部局も含めて対応していかなければならないというこ
とで、総合教育会議が開かれることになった次第であります。

私といたしましても、教育長、教育委員の皆さま方、教育委員会の部局、市長
部局とも連携をとりながら、全ての子どもに、昭島市で育って、勉強し、巣立っ
ていく教育環境を整える、そういった目的を持って委員各位のご意見をお伺い
し、教育行政に反映していきたい思いなのでよろしくお願いします。

昭島市では宿泊行事が行えなかった小学6年生と中学3年生の思い出づくり
として、教育委員会、学校と相談し市内ホテルを活用した行事が開催できました。
拝島第一小学校からメッセージをいただき、このコロナ禍の中で非常にうれし

い気持ちにさせていただきました。校長先生方にも、コロナの1年で行事ができないなか、機会を設けていただいて、思い出づくりができたと感謝いただきました。

子どもたちに寄り添いながら、「さらに昭島が大好きになりました。」とさらに言われるように教育委員会、市長部局、オール昭島で、学べて、巣立って、社会人になって、昭島っていいねって言われるように、よろしくお願いします。

本日の議題は、「GIGAスクール構想の実現に向けた課題について」と「生涯学習環境のデジタル化における課題について」、の2点であります。

ご案内のとおり、国におきましては、コロナ禍の中にありまして新しい生活様式が求められている中、これを契機にデジタル化を強力に加速していくとしております。

本市にとりましても、あらゆる行政分野でのデジタル化の加速は重要な課題であります。学校教育、生涯学習の分野におきましても、取組を進めていかなければなりません。委員の皆様のご意見もいただく中で協議してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

それでは、本日の議事に入る前に、昭島市総合教育会議運営要綱 第3条 第3項の規定に基づく、本日の議事録への署名につきましては、石川教育委員にお願いをいたします。

続きまして、議題に移りますが、説明に入る前に事務局から配布資料を確認させていただきます。

○企画政策課長 それでは、配布資料の確認をさせていただきます。各委員には、事前に3枚資料配布をさせていただいております。1枚目「令和2年度 第1回昭島市総合教育会議 日程」でございます。2枚目が資料1といたしまして、「GIGAスクール構想の実現に向けた課題について」でございます。3枚目は資料2といたしまして、「生涯学習環境のデジタル化における課題について」を付けさせていただいております。過不足等ございませんでしょうか。配布資料については以上でございます。

○臼井市長 それでは、3の議題 ①、「GIGAスクール構想の実現に向けた課題について」、ご協議いただきたいと存じます。

では、担当より説明をお願いします

○学校教育部長 GIGAスクール構想の実現に向けた課題について、御説明いたします。資料1をご覧ください。

1 GIGAスクール構想実現への取組につきましては、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現するため、1人1台端末などの整備をするものです。2 スケジュールでございますが、ハード面では、

一人一台端末の整備につきましては、2月末までに終えており、4月からの運用開始に備えております。

次に、ソフト面におきましては、学校ICT機器の運用といたしまして、①現在、教員を対象とした端末の操作方法等に係る研修を実施しております。②教員向けの「ICT活用マニュアル」及び「学習用タブレット運用ガイドブック」を使用しての校内研修などを実施しております。③児童・生徒向けには「学習用タブレット使い方ハンドブック」を配布して、個別最適なICTの活用を図ってまいります。④ICT担当者連絡会を設置し、今後の昭島市のICT活用の方向性を協議してまいります。

また、ICT支援員を配置し、教員の日常的なICT活用の支援を実施してまいります。

3 課題でございますが、1 児童・生徒の学び方に関する課題といたしましては、(1)教科書などの紙媒体による活字で実践してきたこれまでの教育と、ICTのベストミックスを図り、教員と児童・生徒の力を最大限に引き出すための新しい学習環境を構築することなど、記載のとおりでございます。2 教員の働き方に関する課題といたしましては、(1)ICTを効果的に活用した学習活動を展開することにより、校務の負担を軽減し、児童・生徒と教員が向き合う時間をより多く確保することなど記載のとおりでございます。

以上、簡略な説明で恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

○臼井市長 ただいま、担当より説明がありましたが、何かご不明な点やご質問、また、ご意見等ございますでしょうか。

○紅林委員 1人1台端末ということですが、授業で使う場合に大型モニターとかで、子どもたちがタブレットに入力した内容を表示するものが、各教室に整備されるのですか。

○庶務課長 今年度中に全ての学校に3年計画での配備が完了するところであります。先生のパソコンの画面を大型モニターに映すことができ、先生のパソコンでは子どもたちのパソコンの進捗状況が分かるようになっています。

○氏井委員 パソコンとタブレットの中で、タブレットを選択した理由を教えてください。

○庶務課長 機種を選定は各学校の先生にデモンストレーションを行い、意見をいただき、タブレット型でキーボードの付いているものを選定しました。

○氏井委員 1人1台となり管理する数が多くなりますが、置き場所はどうするのでしょうか。

○庶務課長 2月末までに充電保管庫を整備して、収納と同時にパソコンの充電ができるようになっており、夜間に順番に充電する仕組みになっています。

○白川委員 大きな問題としては、先生が子どもたちに正しい使い方を教えることができるか、ということがあります。また先生が正しく活用できるかということもあります。

1人1台タブレット利用に伴う問題点の整理も必要であり、支援員が14人いるといいますがその辺の充実が大事なことであり、どんな人がやるのか、特に立ち上げ時には重要ではないかと思しますので、その点についてお聞かせください。

また、ICT担当者連絡会が設置されるとのことですが、今言ったような問題を討議していく場として、これも重要であると考えます。

○庶務課長 ICT支援員の配置につきまして、4月より14名の支援員を人材派遣会社からの派遣で配置します。タブレット端末についての不良や故障などに対応をしていただきます。また修理、セットアップ、ユーザーアカウントの管理、使用方法についても対応いたします。資格があるわけではありませんが、今言ったような作業ができる方を配置します。

○指導課長 ICT担当者連絡会でございますが、小学校13校、中学校6校におきましてICT担当者を設置させていただいております。最低、月に1回程度は集まって、各校の取組状況や課題について、出し合って共有して、学校間の差をなくすようにしていきます。連絡会に準備委員会を設け、コンピュータ推進担当の校長と教育委員会事務局で、会の進め方や昭島市のICT関係の教育をどう進めていくべきか、協議をしていく会を設置していく予定であります。

○白川委員 支援員は子どもたちに直接対応するのではなく、先生方に対応するということよろしいでしょうか。

○庶務課長 支援員は教員のサポートに入るということで、考えております。

○白川委員 支援員のサポート内容が大事になってくると思いますので、しっかりと協議して対応いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○教育長 GIGAスクール構想自体がコロナ禍で前倒しとなり、端末の環境整備や通信環境の整備などを急ぎ実施してきました。これから何をやるのか、というソフトのところは地に足を付けて一定の期間をかけて取り組んでいくところでございます。最初の段階でつまづくことがないように、先生も子どもたちも同じ速度で進んでいけるように、工夫が必要だと考えております。まずは、教育会で情報共有し、得意、不得意の先生もいるので、なるべく同じスピードで共通感を持ちながらGIGAスクールの構築に向けて進んでいきたいと考えております。誰一人取り残すことのない、個別最適化された教育環境ということで、紙とICTとベストミックスさせ、せっかく大きな財源をかけて整備したので、きっちり活かしていきたいと考えております。

○臼井市長 時代の要請のもとにG I G Aスクール構想や、国、都をあげてのデジタル化が進んでいきます。ただ、誰一人取り残さないように、何が求められているかと思うと、本を読むことだと思っています。読解力は非常に大事であり、読解力がなければ人の気持ちはわかりません。ただ単に勉強するだけでなく、人の気持ちがわかるように、G I G Aスクール構想と読書体験の両方が大事であります。

今後の教育委員会の課題としては、G I G Aスクール構想とともに学校図書の充実、アキシマエンスの充実であります。

新聞は新聞社の協力により各学校に配置しているところであり、新聞、読む力、人の気持ちがわかる、昭島っ子に育ってほしいと思っています。

尊敬する政治家の1人として片山元島根県知事がいますが、本の力を重視し、学校図書を充実させました。

やはり画面見ているだけだと疲れます。そういった意味で本を読む媒体として紙を活用することも引き続き残し、G I G Aスクール構想を進めながら、紙の読書もしながら読解力を高め、人の気持ちがわかる、昭島っ子を育てていきたいと思っておりますので、教育員会においてもよろしくお願いします。

○紅林委員 端末の活用がみな同じ速度であるということは重要ではありますが、もったいないことだと思います。得意な先生、興味がある子どもについては、どんどん進めていってもいいと思います。どんどん進めるところは先生も子ども一緒に学んでいく、というようなスタイルの教育ができれば素晴らしいと思います。得意な先生が苦手な先生にあわせないで、チーム学校として協力して進めて、G I G Aスクールができあがっていくのが、ふさわしい教育であり、ブレーキをかけすぎないように感じています。

読解力について、市長さんがおっしゃるとおり大事なことであり、I C Tを使うことで読解力、理解力に差がついてしまうことが危惧されます。読解力をつける読書の推進は重要なことだと感じています。

この先の話になりますが、タブレットを持ち帰らせるかどうかということがあります。休校になってしまった場合、遠隔授業ができるのかどうか。タブレットでの情報の制限をどのようにかけていくのか、閲覧先、利用時間の制限をどうしていくのか大事なことになるので、良く研究をしていただきたいと思います。

また、不登校の子どもたちへの学びの保証の1つになれば、非常に良いことであり、専用ソフト等で学校には居られないけど授業の状況を見ることができるといいと思います。雰囲気がわかると、学校に復帰したときに円滑に復帰できるので、不登校生徒の対策として出席として認めるなど、新たな活用が期待できます。

I C T支援員ですが、トラブルは急に来るので、配置の仕方、全校での授業の仕方の工夫や、継続的に必要な数の配置をしていただきたいと思います。

○指導課長 1人1台端末を、持ち帰らせるということは重要なことではありますが、そのためのルール、目的をしっかりとらせていきたいので、少しお時間をいただきたいと

ころです。不登校の子どもへの取組実例として、授業の風景を、子どもの風景を見るだけという取組はあります。子どもと学校と家庭と、どのように使っていくのかということをしっかり協議して進めていくことが重要であると思っております。子どもたちの学びをとめないために何ができるか、引き続き考えていきたいと思っております。

○臼井市長 今の紅林委員さんの気持ちが良く分かります。ただ、今GIGAスクール構想がスタートしたばかりですので、走りながら、考えて、ちょっとおかしいなと思ったら立ち止まって考えて、また進めていく、そういうことの繰り返しで1つのことができてきます。教育委員会にも走りながら進めるが、おかしいなと思ったら立ち止まって、ということ首長としてお願いさせていただきたいと思っております。

○氏井委員 お話のとおりだと思います。今まで大事にしてきた教育実践とICTのベストミックスを図ることが大事になってくると私も考えています。ICTを活用した学習場面では、シミュレーションなどのデジタル教材を用いて思考を深めることができたり、グループや学級全体の中で誰でも意見発信がしやすくなったり、遠隔地やさらには海外との交流も容易にできたりなどメリットもたくさんあります。従来の優れた教育活動を大切にしつつ、ICTを活用した良さを取り入れて、あせることなく地道に少しずつそして何かあればとどまって考えるという姿勢で臨んでいけたらよいのでは考えております。

○臼井市長 教育委員会は今のお話を参考に、誰一人取り残さないような、取組をお願いしたいと思っております。

続きまして、3の議題 ②、「生涯学習環境のデジタル化における課題について」、ご協議いただきたいと存じます。

では、担当より説明をお願いします

○生涯学習部長 それでは、「生涯学習環境のデジタル化における課題について」 ご説明申し上げます。

文部科学省「中央教育審議会生涯学習分科会」において、『多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育』をテーマに議論がなされ、昨年9月に「議論の整理」としてまとめられております。

その中で、人生100年時代において、必要な時に必要な学びを通じ成長し、心身の健康を保持しながら活動できることが求められており、新しい時代の学びのあり方として、「オンラインによる学び」と「対面による学び」を組み合わせることにより、学びがさらに豊かなものになるとしております。

その実現に向けた課題として、資料にお示ししております3点が課題として挙げられております。

- ① 社会教育施設等におけるICT環境の整備
- ② ICT機器を利用できる者と利用できない者との格差、いわゆるデジタル・

ディバイドの解消

③ ICTリテラシーを身に付ける学習機会の充実

リテラシーとは、ICTを正しく、適切に活用できる力のことをいいます。

次に、本市の社会教育施設等における現状と課題につきましては、生涯学習部、所管施設のICTの学習環境として市立会館（11館）、市民会館・公民館、総合スポーツセンターは、ロビー付近で利用できるフリーWifiが設置されており、また、市民会館・公民館及びスポーツセンターについては、表の各室に市の主催事業等で利用可能な専用の回線が、この度、設置されたところでございます。

一方、アキシマエンスにつきましては、館内全域で利用可能なフリーWifiに加え、表の各室において施設利用者が使用できる有線LANが整備されており、市民主催の会議や講座等にご利用いただくことが可能となっております。

次に（２）の取り組み状況でございます。１点目、試行的ではありますが、社会教育委員会会議や公民館運営審議会、あきしま会議をZoomやwebexを活用したオンライン会議を開催いたしました。

②の「オンライン視察及びパネルディスカッション」につきましては、施設利用者において、コロナ禍におけるアキシマエンスの視察においてオンラインで実施いたしました。

また、③のzoomを活用した講演会は、アキシマエンス体育館において講師がオンラインにより開催いたしました。

最後に、（３）課題でございますが、ICT環境のハード面の整備やデジタル・ディバイドの解消のための学習機会の提供など、『誰一人取り残さない』ための体制整備が課題となっております。今後におきましては、課題解決に向け、市民ニーズを踏まえ、行政のみならず、産業、大学、金融機関等の民間団体との協働も視野に入れる中で、検討を深めてまいります。

以上、簡略な説明で恐縮ですが、ご説明とさせていただきます。

○紅林委員 Zoomを使った、会議や講演会に参加させていただき、生涯学習には大きな効果があると感じています。家に居てもでき、移動の時間を使わないし、家で子どもや高齢者のお世話をしながらでも、学習の機会の確保ができるので、素晴らしいと感じております。より拡大、加速するとともに、苦手な方には、学生がお手伝いできるとか、世代間交流もできたらいいのでは感じました。

○市民会館・公民館長 公民館では市民団体がパソコン、スマホ教室を開催して、盛況な講座となっています。

○生涯学習部長 デジタル・ディバイドの解消はとても大事なことであり、民間企業さんを活用したりして、学習の機会を提供することは大事なことで、そういったことも含めて講座等を開催していきたいと思っています。

○臼井市長 肩こりと腰痛がひどかったが、デジタルでヨガ教室をやってみたら、すごく良くなりました。そういうきっかけとかで、オンラインに入るのもいいことではないかと思います。

○紅林委員 おっしゃるとおり、市立会館、スポーツセンターに行けない人も、近所のスペースで、数人でできるのが、デジタルの強みだと思います。

○臼井市長 できる人、できない人の差を解消していく1つの手です。

○氏井委員 アキシマエンシスを視察なさった方々の感想をお聞きする機会が最近ありましたのでお伝えいたします。「市内に住んでいてもなかなか訪れる機会がなかったけれど、すばらしい施設で驚きました。郷土資料室の大画面のタッチパネルに触れわくわくしました。図書館でも自動貸し出しができたり電子書籍が読めたりなど、ハイテクを利用しているのがよくわかりました。昭島市の自慢が一つ増えました。」一人でも多くの方々にアキシマエンシスの良さに触れていただきたいとの思いを改めて強く感じた次第です。また、テレビで紹介された「シニアの生きがい」の番組での旅行好きの方の姿がとても印象に残っています。ご高齢になり歩行が難しくなった今、デジタルを活用した海外の映像を存分に楽しんでおり、そのことが生きがいの一つになっているそうです。人生100年といわれている中、今までのご高齢の方とは違う楽しみ方ができる世の中になるのではないかと、大きな夢が膨らみます。

○臼井市長 昭島市ではインバウンド、シティプロモーションにしっかり力を入れて、昭島を再発見できればということで、力をいれていきますので、よろしくお願いします。

○白川委員 各施設のICT環境を充実させ、紙媒体とICTのベストミックスという言葉がありました。郷土資料室もコンテンツを充実していく必要があります。学校と生涯学習が一体化して利用しあえる環境をつくり、戦争体験の語り部等の記録をデジタルアーカイブで作成し、子どもたちのタブレットにもつながり、教育につながっていくといいです。また、歴史的なことだけではなく、現代的な問題、社会学的な問題、自然環境問題とか、いろいろなことが発信できるので、コンテンツの充実が大事であり、学校現場の要望を取り入れて、アキシマエンシスをさらに有効なものにしていただきたいと思います。

○社会教育課長 新しい郷土資料室ができて大変好評ですが、更なる充実をということで、お話をいただきました。まず、学校と生涯学習の連携ですが、GIGAスクール構想の中で、生涯学習のデジタルアーカイブを使っていただくことで、連携をしていきたいと考えております。また、今後のコンテンツの充実ですが、お金をかけなくても他市へのリンクを張るなど、鋭意検討しております。戦争体験のご質問ですが、昔語りとか昭島の匠とか産業的なものの動画作成を徐々に進めていければと思っております。それがまとまってくればデジタルア

ーカイクとしてアキシマエンスの郷土資料室で、発信していきたいと考えております。

○教育長 生涯学習、社会教育の分野はＩＣＴを活用することによって、より充実をしていける最たる分野であります。ただ、ＩＣＴ一辺倒になるのではなく、今までの活動の中から、いいものをベストミックスさせていくのがいいと考えております。

学校教育と生涯学習の連携ですが、学校の方で生涯学習に求めるものはどんなものがあるか、生涯学習はどう応えていくか、勉強しながら情報交換しながら、できるところからやるというのが大事なので、今後の課題にしていきたいです。デジタル・ディバイドの解消やＩＣＴリテラシーを身に付けることへ生涯学習として、一定の役割を果たしていきたいと考えております。

○臼井市長 その他、何かございますか。
事務局よりお願いします。

○企画政策課長 ２点ほどご連絡させていただきます。

１点目でございます。平成２２年６月に文化芸術振興の基本方針を策定しましたが、１０年が経過し、平成２９年には文化芸術基本法の改正が行われました。観光、まちづくり、教育、産業等との連携が求められています。こういった背景を踏まえまして、令和３年度に新たな、文化芸術の推進に関する基本計画を策定すべく、庁内委員会や外部委員会を立ち上げますので、ご承知おきいただきたいと思います。

また、次回の会議につきましては、課題等を整理した上で、議題を設定させていただき、改めて日程調整をさせていただきたいと考えております。

○臼井市長 最後に、全体を通しましてご意見等ございますでしょうか。

本日は、「ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けた課題について」、及び、「生涯学習環境のデジタル化における課題について」教育委員の皆さまと協議させていただきました。大変有意義な会議でありました。

新年度における教育施策につきましては、市議会定例会において、教育長から基本的考え方について申し述べたところでございます。

引き続き、教育委員の皆様と意見を交わしながら、教育委員会と市長部局の一層の連携を図りつつ、教育施策の推進に努めてまいりたいと存じますので、今後ともよろしくお願いします。

それでは、ただ今をもちまして、令和２年度第１回 昭島市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

署 名

.....

.....